

活用事例	③ 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】ブラインド方式、保護者への引き渡し名簿の共通理解		
学校名	下松市立下松中学校		
日時	平成25年11月20日(水) 5・6時間目		
場所	グラウンド及び下松公園	参加者	1年生徒・教職員

1 訓練のねらい

授業中に地震が発生し、直後に津波警報が発令された場合に、自分の身を守るための基本的な行動ができるかどうか、また、避難経路の安全を確認しながら、二次避難場所まで整然と避難できるかどうかを検証する。

2 訓練の概要

- (1) 目的
 - ア 地震及び津波に対する防災意識を高め、災害時に備えて安全かつ迅速な判断と避難ができるようにする。
 - イ 教職員の的確な判断と指示ができるようにし、生徒の避難誘導に万全を期した体制を確立する。
- (2) 日時

平成25年11月20日(水) 5校時
13:40～(雨天決行)
- (3) 場所

生徒棟3階 各教室～星の塔
- (4) 実施目標
 - ア 教職員の指示をよく聞くことができる。
 - イ 無言で指示に従って避難することができる。
 - ウ 地震・津波に対する避難の仕方について正しい知識が身に付いている。
 - エ 予告無しでも、あわてず迅速に行動できる。
- (5) 流れ
 - ア 地震発生 多目的ホールから地震の発生を知らせる(y)
 - イ 指示1「机の下に入り頭部を守りなさい」(担任)
↓
30秒間 ジャージを頭の上に乗せる
 - ウ 指示2「グラウンドに避難しなさい」(担任)
↓
避難移動(下足に履き替える)
↓
中庭集合(学年集会の隊形)
↓
各クラス、点呼・報告「□組○名 欠席○名 現在数○名 全員そろいました」(総務委員)
↓
学年主任へ報告(担任)
 - エ 指示3「1組から避難を開始しなさい」(M)

↓
正門を出たら、2クラス2列横隊で一斉に横断し、星の塔へ移動する。
↓
星の塔グラウンドに集合(学年集会の隊形)
↓
各クラス、点呼・報告「□組○名 欠席○名 現在数○名 全員そろいました」(総務委員)

- ↓
学年主任へ報告(担任)
- (6) 留意事項
 - ア 事前通告無し
 - イ グラウンドまでの避難時は、ジャージを頭に乗せる。
 - ウ 必ず下足に履き替える。
 - エ 避難経路を確認する。
 - オ 教職員の分担
学級指導・指示(担任)、地震発生連絡(y)、人員最終確認(Y)、全体指導(M)、緊急用車両(Y)、通路安全確保・確認(m・T)
 - (7) 事前準備
 - ア K Y Tで、地震のときの注意や避難方法などを学習し、知識として知っておく。
 - イ 教職員間で危機管理マニュアルの内容の確認をする。
 - ウ 昨年度からの改善点であった保護者への引き渡し名簿を作成し、引き渡し方法を共通理解する。

担任	学年	組	出席確認	健康報告	保護者引き渡しサイン	確認	備考
		1					
		2					
		3					
		4					
		5					
		6					
		7					
		8					
		9					
		10					
		11					
		12					
		13					
		14					
		15					
		16					
		17					
		31					
		32					
		33					
		34					
		35					
		36					
		37					
		38					
		39					
		40					
		41					
		42					
		43					
		44					
		45					
		46					
		47					

3 訓練の成果と課題

【成果】

今までの定期に行う避難訓練では、担任から直前に訓練を行う目的とやり方や注意点を説明された後、指示されたとおりに行動をするというパターンで行うことが多かった。毎回同じような内容なので、実際の災害への危機感も薄く、自分で考えて動くという対応力はあまり身に付かず、周りの人と同じように動いておけばいいと思う他力の生徒も多くいた。そこで今回は、避難訓練があることを告げず、教職員の中でのみ訓練を行うことを打ち合わせし、いきなり「地震発生訓練」を行った。生徒たちはいざというとき、どう行動すればいいのかを一人ひとりが考える機会となったと思う。

今回のいきなり「地震発生訓練」では、ほとんどの生徒たちは、以前にKYTで学んだことを思い出し、教職員の指示を静かに聴き落ち着いて行動できていた。また、いざ災害が起こったときの行動を一人ひとりが考えることもできた。それとともに自分ができていなかったこともわかり、これから対策を考えるきっかけにもなったと思う。

教職員においても、普段からKYTシートを使った学習をやっておくことがとても役立つことが分かった。短時間ででき、いろいろなバージョンがあるこのKYTシートを計画的に行うことは大変効果的であるので、今後も使用したい。



【課題】

教職員の事前打ち合わせはできており、役割分担もされていた。しかし、実際には地震はいつどこで起こるか分からない。教職員一人ひとりが指導者として動けるよう、そのときの状況を冷静に判断し指示できるように、教職員の立場としてのKYTシートや訓練を繰り返し行う必要がある。

また、いざというとき生徒だけのときもあるので、自分の命を守り、次に他の命も守るよう行動できるようにしていきたい。ただ、大がかりな訓練となるとなかなか時間が取れないのが実情である。できれば、KYTワークシートやミニ避難訓練などを取り入れ、危機に対する備えを工夫していきたい。